

●2009年11月 総覧 モバイル版 過去記事 検索

- 2009/11/29 一方的連邦宣言, 国家解体のおそれ
- 2009/11/28 ネパールに学ぶ出稼ぎ術
- 2009/11/26 動物の「人道的」供犠：動物愛護の偽善と倒錯
- 2009/11/18 「伝統」を守るヤダブ大統領
- 2009/11/17 マオイスト, 土地没収再開
- 2009/11/15 第3波デモ宣言の建前と本音
- 2009/11/12 ネパール憲法勉強会
- 2009/11/11 動物供犠祭への政治介入：動物権利擁護派の偽善性
- 2009/11/10 マオイストの象徴的自治州宣言
- 2009/11/09 ゴルカのマオイスト農場
- 2009/11/08 北朝鮮レストラン「王流館」
- 2009/11/07 GP批判からBP批判へ？
- 2009/11/06 ネ大使館協力「仏陀再誕」
- 2009/11/04 ●●●●●● と州インフレ
- 2009/11/02 人民蜂起か軍決起か

2009/11/29

一方的連邦宣言, 国家解体のおそれ

谷川昌幸(C)

マオイストは11月24日, 連邦宣言をすることを決定した。大統領も首相も無視した一方的宣言で, 法的には内乱であり, もし本気なら国家解体への序曲となりかねない。

この決定を下した統一共産党マオイスト (UCPN-M)の会議には, プラチャンダ議長, バブラム・バタライ副議長 (UCPN-M議長) も出席していたから, これはマオイストの正式の党決議ということになる。具体的なスケジュールは次の通り――

12月9日: ストライキ

12月11日: Limbuwan / Kochila

12月13日: Seti-Mahakari / Tharuwan

12月14日: Kirat / Sherpa

12月15日: Bheri-Karnali / Bhote-Lama

12月16日: Newa / Tamsaling(Chepang, Majhi, Rai-Danuwar, Thami, Hyolmo, Pahari etc.)

12月17日: Magarat / Tamuwan(Kumal, Thakali)

12月18日: Madhesh(Awadh, Bhojpura, Mithila)

また, これに合わせて州知事も発表される。選考方法は発表されていないが, マオイスト系だとすれば, マオイスト州委員会の次の各州担当委員が知事となるかもしれない――

Limbuwan: Narayan Prasad Sharma

Kirat: Gopal Kirati

Kochila: Haribol Gajurel

Mithila: Biswo Nath Sah

Bhojpura: Bhim Prasad Gautam

Awadh: Devendra Poudel(Sunil)

Tamsaling: Agni Sapkota

Newa: Hitman Shakya

Tamuwan: Hitraj Pande(Uttam)

Magarat: Hemanta Prakash Oli(Sudarshan)

Bheri-Karnali: Khadga Bahadur BK(Prakanda)

Seti-Mahakali: Dharmendra Bastola

Tharuwan: Hari Bhakta Kandel(Pratik)

このマオイストの連邦宣言は, 包括和平協定にも暫定憲法にも違反する, 大変危険な政治的冒険である。

もしかりに, この連邦宣言を日本に置き換えてみると, たとえば九州が日本政府を無視し一方的に州(邦)宣言をするようなものだ。もしこんな事態になれば, ハトはタカに一変, それを「内乱」ないし「外患」と見なし, 「国民保護」のため自衛隊や警察を動員し, 一気に鎮圧してしまうだろう。日本国刑法によると――

刑法第77条 国の統治機構を破壊し、又はその領土において国権を排除して権力を行使し、その他憲法の定める統治の基本秩序を壊乱することを目的として暴動をした者は、内乱の罪とし、次の区分に従って処断する。

1 首謀者は、死刑又は無期禁固に処する。

刑法第80条 外国と通謀して日本国に対し武力を行使させた者は、死刑に処する。

重罪だ。日本で一方的な州(邦)宣言を企てる者は、死を覚悟せざるをえない。

マオイストは、政府与党に圧力をかけるための象徴的行為として連邦宣言を行うのかもしれない。しかし、たとえそうだとしたとしても、このような国家解体を招く怖れのある危険な冒険は、ネパール人民のためを思うなら、止めるべきだろう。

21:48 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2009/11/28

[ネパールに学ぶ出稼ぎ術](#)

谷川昌幸(C)

落日の日本は、就職氷河期に入った。長崎県の大卒就職内定率は40%! まだ6割もの学生の就職先が決まっていない。こんなヒドイ事態は、これまで経験したことがない。



朝日新聞長崎版2009.11.27

学生には、早く日本を見限り、さっさと海外雄飛を目指せ、と発破をかけている。中国、インド、東南アジア、仕事はいくらでもある。ところが、ほとんどの学生は内向き、積極的に動こうとはしない。働かなくても親が食わせてくれる、と甘えているものも少なくない。こりゃあ、ダメだ。

この絶望的状况に大学は危機感を募らせ、就職セミナーやら「保護者説明会」を開き、就職させようと躍起だ。信じられないだろうが、大学は、二十歳を過ぎた大学生の両親を「保護者」と呼び、大学に集め、「お子様の就職活動」について説明する。親は親で、のこのこ大学に出掛け、「うちの子にどんな就職準備をさせたらよいでしょうか? うちの子はちゃん

と就職活動をしていますか？」などと、大学教師に相談する。こんなママゴト大学が世界の他のどこにあるだろう。

そもそも大学は「大人」教育の場だ。両親を「保護者」と呼んだ時点で、大学は自らの教育失敗を天下に公言したようなものだ。「大学」の看板を返上し、「小人」保育所と改称すべきだろう。

日本の大学は、「保護者説明会」などといった情けない活動はやめ、むしろネパール青年を招き、学生たちに経験を話してもらおうとよい。あるいは、日本人学生をネパールの大学に短期留学させてもよい。

ネパール社会には二十歳をすぎた青年たちを「小人」扱いする余裕はない。彼らは日本の何倍も厳しい就職戦線で徹底的に鍛えられ、たくましい生存能力を身につけている。世界のどこへでも彼らは出て行くし、どこに行っても彼らは生きていける。

日本もつい数十年前まではそうだった。歴史的に見て、いまが異常なのだ。日本の青年たちも、本当にメシが食えなくなれば、「大人」にならざるをえないだろう。

11:32 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [教育](#)

2009/11/26

[動物の「人道的」供犠：動物愛護の偽善と倒錯](#)

谷川昌幸(C)

5年に一度のガディマイ祭が始まり、動物供犠が盛大に行われている。初日の24日には、水牛1万6千頭をはじめ、野ねずみ、鳩、雄鶏、アヒル、子羊、豚などが、ガディマイ女神に捧げられた。想像を絶する供犠だ。誰もその凄まじい情景に慄然とし、畏怖せざるをえないだろう。

動物愛護団体は、もちろんカンカンに怒っている。ラビ・タパ氏はこう主張する——「動物は人道的に (humane) に扱うべきだ。殺すのも苦痛なく人道的にできるはずだ。」

Humaneの語源がhuman(人間の)だとすると、これは滑稽なまでに倒錯した偽善といわざるをえない。動物を動物らしく扱い、殺すのであれば、動物の尊厳の尊重になる。ところが、動物愛護団体は、動物を「人間的に」、 「人道的に」扱い、動物の「人権」を守れ、と主張しているのだ。

タパ氏は、人間は動物を殺して食べざるをえないし、キリスト教徒は感謝祭に無数の七面鳥を殺して食べ神に感謝しているということを正当にも認めている。そして、それらを認めたと上で、動物を殺す際、「野蛮な(barbaric)」殺し方は止めるべきだ、と主張されるのである。

この議論にも、理がまったく無いわけではない。国際人道法は、戦時の人殺しを認めているが、残虐な殺し方は禁止している。敵を殺してもよいが、合理的・能率的で、つまり近代的で清潔な、苦痛の少ない「人道的な」殺し方をせよ、と命じているのだ。とんでもない偽善だが、それでも残虐に殺されるよりはましである。戦争が、近代的、効率的となり、清潔になり、野蛮さが軽減され、「人道的」になるからである。近代文明の本質は死を隠すことに

ある。

しかし、この理屈は、人間文明の外にいる動物にも当てはまるか？

動物の側からすれば、どのような殺され方をしようが、トラに喰われようが、人間に喰われようが、同じことである。苦しさからいえば、餓え死や病死の方がはるかに苦しいであろう。しかし、どんなに苦しかろうが、どのような殺され方、死に方をしようが、それは動物自身にとっては自然現象であり、宿命として受け入れざるをえないのである。

動物の苦しみや死を見たくないのは、動物自身ではなく(生存本能により仲間の死苦を忌避することはあるが)、人間の側である。動物の側からすれば、清潔な処理工場で人知れず機械的に殺され、解体処理され、人間に喰われるよりも、死の苦しみを喰う人間に見つめられながら殺される方が、本望であろう。少なくとも自分たちの死の意味を人間たちに思い知らせることができるからだ。

動物を「人道的に」殺すことは、決して動物の生命の尊重にはならない。それは、「動物の人権」といった倒錯した人間の自己欺瞞を助長するだけだ。動物を合理的・機械的に処理し、彼らの死苦を見ることなく、平然とそれを喰う。それこそ冷血であり、卑怯であり、動物にとっては残酷なことである。

動物を殺すのであれば、その死苦をしかと見とどけつつ殺し、喰うべきだ。そして、その人間生存の原罪の重さを自分だけで引き受けられないのであれば、女神様に救いを求めるのもやむを得ない。神頼みであれ、動物たちの死を見ないよりは、人間の罪ははるかに軽い。

もちろん、他の生命を奪うことなく生きている「バラの仏陀少年」のような聖人なら、ガディマイ女神への動物供犠を正当に非難することができる。彼は、6ヶ月間、食物も水も摂らず、木の根元の祠で瞑想し続けた。彼は、神のために「動物を殺すべきではない」と説いている。彼自身が、6ヶ月間、食物を摂らず、その後もおそらく何も食べずに生きてきたからだ。

しかし、「バラの仏陀少年」のように飲み食いせず生きる覚悟のない衆生は、殺される動物のためにも、動物の死をできる限り直視する努力をすべきなのだ。

■参照

2009/11/11 [動物供犠祭への政治介入：動物権利擁護派の偽善性](#)

"Gadhimai fest begins in Bara, thousands of animals sacrificed on first day," *eKantipur*, Nov24.

Rabi Thapa, "Animal fights: we can make God's work a little less barbaric," *Nepali Times*, #477

"Stop the slaughter: Gadhimai attracts international attention," *Nepali Times*, #475.

Arun Gupto, "Animal symbolism," *Republica*, Nov25.

11:01 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)

2009/11/18

[「伝統」を守るヤダブ大統領](#)

谷川昌幸(C)

ヤダブ大統領が、大統領府職員に伝統的制服の着用を義務づけた(ekantipur, Nov16)。大統領府・副大統領府の職員には、年14000ルピーが制服代として支給されているので、制服着用は当然だ、という説明である。

ダルワ・スルワールと黒のバドガオン帽という服装が政治的にどのような意味を持つのか？ 大統領は儀式的機関だから、伝統的装束を義務づける、というのが表向きの理由だが、その伝統はどの民族／カーストの伝統か？

人民主権共和国になったのだから、「人民」を普遍的に象徴する「人民服」の方が、よいのではないか？

12:16 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)

2009/11/17

[マオイスト, 土地没収再開](#)

谷川昌幸(C)

マオイストが地方で土地没収を再開した、と報道されている(ekantipur, Nov14)。マオイスト理論からすれば、地主の土地没収は当然だが、なぜこのタイミングなのだろうか？ 20日の文民支配回復回答期限への景気づけか？ それとも、ブルジョア化した党幹部への反逆か？

そもそも土地没収・分配(農地解放)は、米帝国主義でさえ日本に対して強行した政策であり、極めて近代的、民主的改革である。米帝ですらやったことだから、マオイストがやって悪いことはない。政府にできないのなら、マオイストが代行して農地没収・分配をやればよい。ネパールの地方の近代化は一気に進むであろう。

もう一つ、農地解放以上に重要なのが、都市部の不動産。これはネパール・バブルの諸悪の根源であり、こんなものこそ全部没収し、コミュン所有としてしまうべきだ。宅地、豪華住宅、賃貸マンション、豪華商業施設、こんなものは没収するか、懲罰的課税で国庫物納させる。不動産投機に走る銀行の接收も必要だろう。全部マオイスト理論に即した政策だ。

地方の土地解放、都市部の不動産解放をマオイストが実行すれば、ネパールが一気に近代化することは間違いない。

10:04 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2009/11/15

[第3波デモ宣言の建前と本音](#)

谷川昌幸(C)

1. ネパール社会の強さ

朝日(11/15)がマオイスト反政府デモを国際面で大きく取り上げている。武石英史郎記者がパンディ蔵相らにインタビューして書いた記事。さすが、要領よくまとめられている。

いつものことながら、ネパールは「平和」以上に「争乱」が絵になる。バンダ(ゼネスト)を

やっても、議会や政府が長期間機能マヒになっても、ちゃんと(苦しくてもそれなりに)人々は生活している。日本では考えられないことだ。

これは、ネパールが先進国がすでに失ってしまったものをまだもっているからだ。ネパールは、経済も社会も、つまり生活がまだ前近代的であり、伝統的社会固有の強靱さを失っていない。そこが、日本人にとっては驚きであり、絵になり、ニュースになるわけだ。

この社会の強靱さに要領よく甘えているのが、諸政党。国政を放り出し、幹部エリートの権力闘争に終始しているように見える。建前は立派でも、本音は卑俗な身内の利権なのだ。マオイストもその傾向を強めている。

2. 大統領に完敗した首相

たとえば、11月13日マオイストのプラチャンダ議長(前首相)が、20日までにマオイストの要求を受け入れなければ強力な第3波デモを開始する、と宣言した。ここにも、政党の社会への甘えが見て取れる。

そもそもことの始まりは、この5月、プラチャンダ首相がヤダブ大統領に完敗したこと。マオイストは、マオイスト人民解放軍の国軍統合問題でカトワル統幕長批判を強め、他党の反対を押し切り、単独で統幕長解任を閣議決定した。ところが、ヤダブ大統領が認証(署名)を拒否したため、カトワル統幕長は9月27日までの任期を全うし、めでたく退職してしまった。権力闘争に敗れたのは首相の方で、プラチャンダ氏は5月4日首相を辞任した。

この件に関しては、5月のブログで何回か指摘したように、憲法上、その気になれば、大統領の方が首相よりも強力だ。「民選国王」といってもよい。大統領は「国家元首」であり、国軍「最高司令官」であり、「非常事態」宣言権限さえももっている。民主的手続きの縛りはあるが、そんなものは国王でさえももっていた。イザとなれば、非常事態を宣言し、強権をふるえないことはない。大統領は国軍を救った恩人なのだ。

3. どたばた解任決定取消の取消

プラチャンダ議長は、この大統領決定を文民支配の否定、違憲と主張し、5月にさかのぼって取消させようとしている。大統領の解任決定認証拒否を取り消し、文民支配を確立し、つまりはプラチャンダ議長あるいはバブラム副議長か誰かを首相にしようというのだ。

これに対し、ヤダブ大統領は13日、「私はこれまで憲法規定を遵守してきた。そして今後も憲法遵守を貫く」と真っ向から反論した(KOL,Nov13)。軍に屈服したのではなく、憲法の問題に従ったのだという。

プラチャンダ議長とヤダブ大統領のいずれが正しいか？ これは理論的にも政治的にも判断が難しい。いずれにも憲法上の根拠がある。また、プラチャンダ議長には人民解放軍2万とYCLなどの強力な実力組織があり、ヤダブ大統領には、はっきりはしないがたぶん9万余の国軍がついている。どうなるか、予想は難しい。

4. 卑俗かつ高尚なネパール政治

ネパール政治の面白さは、今回の文民支配確立問題もそうだが、政治闘争が、一方では権力エリートの卑俗な利権闘争として闘われつつ、他方では、その道具立てがいつも高尚、立派であり世界最新のピッカピッカだという点にある。

だから、ネパールの政治闘争を不合理でデタラメな派閥利権争いとしてバカにしていると、あっと驚くような斬新な結果が出て不明を恥じる羽目になる。一方、道具立ての立派さに惑わされ、手放しで褒め称えていると、煮ても焼いても食えない旧態依然たる派閥利権闘争に終始し、これまた不明を恥じ入ることになる。

ネパール政治は、観察者にとって、はなはだ扱いにくく、やっかいに對象だ。見立てが誤ったのをいちいち恥じていては、身が持たない。そんなヤワな精神の持ち主は、ネパール政治の観察にはそもそも向いていないということであろう。

13:11 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民主主義](#)

2009/11/12

[ネパール憲法勉強会](#)

谷川昌幸(C)

日本政治総合研究所（白鳥令理事長）が、ネパール憲法勉強会を開催する。お問い合わせは、下記まで。

ネパール憲法に関する勉強会

報告者: Dinesh Tripathi氏(LL.M.USA.Advocate,Supreme Court Nepal)

報告:「ネパール憲法について」(使用言語:英語)

日時:平成21年11月24日(火曜日) 午後6:00~8:00

会場:国際文化会館 本館4F 402号室

東京都港区六本木5-11-16 電話:03-3470-4611

主催:日本政治総合研究所(IPSJ) 電話:03-3460-2392

21:03 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2009/11/11

[動物供犠祭への政治介入：動物権利擁護派の偽善性](#)

谷川昌幸(C)

ヒンドゥースタン・タイムズ(Nov9)によると、バラ郡バリヤプールで5年に一度開催されるガディマイ・メラ（11月24~25日）は、約50万頭の動物を犠牲にささげる世界最大の動物供犠祭であり、500万人ものヒンドゥー教徒がお参りに来るといふ。

お祭りでは、水牛、山羊、アヒル、鶏、鳩などがガディマイ女神の前で犠牲に捧げられる。最近では、供犠禁止となったインド諸州からの参拝者が増え、供犠動物の数も増加している

いう。

水牛や山羊の比率はわからないが、50万頭も供犠されるとすれば、ガディマイ女神の前は血の海となるにちがいない。それは、生命への畏敬と感謝の念に満ちた肅然たる情景であろう。

動物供犠は、他の動植物の生命の犠牲により日々生かされていることを思い起こし、他の動植物に感謝するための神聖な宗教儀式である。それは、死によって生かされている人間存在の原罪を告白し、赦しを乞い願う道徳的にも崇高な人間の行為である。

ところが、ヒンドゥスタン・タイムズ紙によると、このガディマイ祭に対し、動物権利擁護派が反対運動を繰り広げている。たとえば、インドの政治家マネカ・ガンディ氏は、ネパール首相に抗議文を送り、ネパール政府がガディマイ祭に介入し動物供犠を止めさせるべきだ、と要求した。

こうした、主に西洋・インドからの圧力に対し、ネパール政府は宗教儀式への政治介入をきっぱり拒否した。ビム・ラワル内相は、参拝者の安全を守るため、警備要員の増員を約束したにすぎない。

このネパール政府の判断は、全面的に正しい。動物権利擁護派は、政府に圧力をかけ、国家の力で神聖な宗教儀式を止めさせようとしている。いくら西洋が非難しようと、そんな理不尽な要求に耳を傾ける必要はみじんもない。あえて叱られるのを覚悟でいうならば――

恐れおののきながら肅然と神の前で動物供犠をする人々と、愛玩犬に服を着せリードをつけて散歩している人本主義的・世俗的現代人を比較してみよ。どちらが生命に対しより真摯であろうか？ どちらが、動物を本当に大切にしているであろうか？ 動物供犠を非難する動物権利擁護派は、生命への恐れも、人間存在の原罪性にも無自覚な脳天気な偽善者である。

参照 2009/03/22 [血みどろのゴルカ王宮](#)
23:26 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [宗教](#)
2009/11/10

[マオイストの象徴的自治州宣言](#)

谷川昌幸(C)

マオイストが、あちこちで自治州(解放区)宣言をしている。Nepalnews.com(Nov9)によれば、ゴパル・キランティ政治局員が、「キラント州」を宣言した。州人民大会で、キランティ同志は、各カーストの愛国者人民が一致団結して封建勢力、インド膨張主義、アメリカ帝国主義を粉砕することを訴えた。

勇ましく、この地方のマオイスト協同組合の役員である私にとっては心強い限りだが、どうも、いまいち納得が出来ない。

キテンティ同志によれば、この自治州宣言は「象徴的」であり、州首都も州役職者も未定だそう。

さらに、州自治を高らかに唱えながら、キランティ同志は、象徴的州宣言の許可をプラチャンダ党首同志から得たのだそうだ。州自治の前に、マオイスト支部の自治の方が先ではないかな？

民族は危険きわまりない観念だ。こんなものを弄んでいると、とんでもないことになる。ウソだと思えば、ナチス前夜のドイツや旧ユーゴでも見てみるとよいだろう。

21:58 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2009/11/09

[ゴルカのマオイスト農場](#)

谷川昌幸(C)

UWB(10/18)が、Neil Horning氏のマオイスト農場訪問記を掲載している。

農場はゴルカのバブラム博士の村にあり、マオイストがモデル農場として運営している。働いているのはマオイスト20~30人と、ほぼ同数の村人(給与100~400ルピー/日)。

男女比は50:50。料理は男女で作り、決定は定期集会で行う。inclusiveで民主的だ。集会場には、マルクス、エンゲルス、スターリン、毛沢東の肖像が掲げている。まだまだスターリンは健在だ。

写真を見ると、なかなか立派な農場だ。ゴルカは近いので、次の機会に見学に行きたい。また、私自身、あるマオイスト協同組合の役員になっているので、わが協同組合もこんな立派なものになっているか、こちらも見学に行こうと思っている。

23:06 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2009/11/08

[北朝鮮レストラン「王流館」](#)

谷川昌幸(C)

朝鮮日報(11/9)が、カトマンズの北朝鮮レストラン「王流館」について報道している。記事によると、カトマンズには大韓航空が乗り入れており、空港にはレストランの女性たちが客引きに来ている。また、市内繁華街でも宣伝ビラ配りをしているという。

店内では、韓国、北朝鮮、日本、中国の歌が演奏され、ミニスカート女性がサービスしてくれる。

ネパールでは、落日の日本にかわり、韓国や中国の存在感が日増しに大きくなっている。北朝鮮がレストランを営業しても、何ら不思議ではない。そして、ネパール情報についても、今後は、もっと韓国に目を向けるべきだろう。

■2008/09/23 [新名所, Okryu-Gwan](#)

14:32 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [グルメ](#)

2009/11/07

[GP批判からBP批判へ?](#)

谷川昌幸(C)

कांग्रेस党は4日の党大会で、党民主化決議を可決した。加算方式で役員が乱造されているため、役員構成が複雑で、正直、よくわからないところも多いが、だいたい次のようなことらしい。(間違っていたら、ゴメンナサイ。)

決議によると、党首、書記長(2名?)、会計、中央委員61名は、党総会で選挙される。この中央委員61名のうち14名は各県(ゾーン)選出、女性6名、ダリット5名、先住民5名、マデシ5名、ムスリム1名を含む。一方、党首は、中央委員会の承認のもとに、副議長、副書記長を任命する。また党首は、中央委員21名を指名する(選挙選出中央委員61名と合わせ計82名)。ただし、党首指名21中央委員の中には女性、ダリット、先住民、マデシ、ムスリムを含む。……

もう、訳がわからない。はっきりしているのは、役員選出方法がやたら複雑になったということ。

さて、これで、ギリジャ党首のご威光が落ちるかどうか? クリシュナ・プラサド・バッタライ指導者も、イザとなるとお出まじ、有力な党首代行も副党首もいらっしゃる。役員だらけ。

やはり、GP批判をするのなら、BP批判をやらないと、腰砕けになるのではないか? でも、そんな恐ろしいことは、NCにはむろんのこと、マオイストにも出来はしないのではないか?

23:54 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [政党](#)

2009/11/06

[ネ大使館協力「仏陀再誕」](#)

谷川昌幸(C)

映画「仏陀再誕」は、ネパール大使館が協力している。ポカラで「仏陀再誕生(原文のママ)」が上映され、子どもたち多数に感動を与えたそう。長崎では、ユナイテッドで上映している。週末にでも、観に行こう。



「映画「仏陀再誕」を通じて、ネパール大使館の協力の下、ネパールのポカラ地区とゴルカ地区の700名以上が通う中高の学校建設と奨学金支給を支援します。釈尊生誕の国、ネパールの子供たちが教育を受けられる環境を整えます。」（幸福の科学出版 映画「仏陀再誕」ネパール教育支援プロジェクトより）

9:57 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [ニュースと政治](#)
2009/11/04

..... と州インフレ

谷川昌幸(C)

ネパールは万事加算方式。要求がでると、次々と足していき、ツケは結局国際社会に回す。これこそ万人満足の.....,, の極意である。

これは、いま大騒ぎしている連邦制 (.....) についても同じこと。マオイスト案は、当初9州だったのに、制憲議会選挙マニフェストでは11州となり、先日、デブ・グルン議員が「国家再構築委員会」に提出したマオイスト案では15州となっている。

他の政党も、「民族」要求を次々と受け入れ、州インフレに加担している。これは、制憲議会が601議席に膨張し、由緒ある国会議場に入りきらず、やむなく宴会場を借り、ろくに議論もせず、給与・経費だけ無際限に急増させているのと同じことだ。

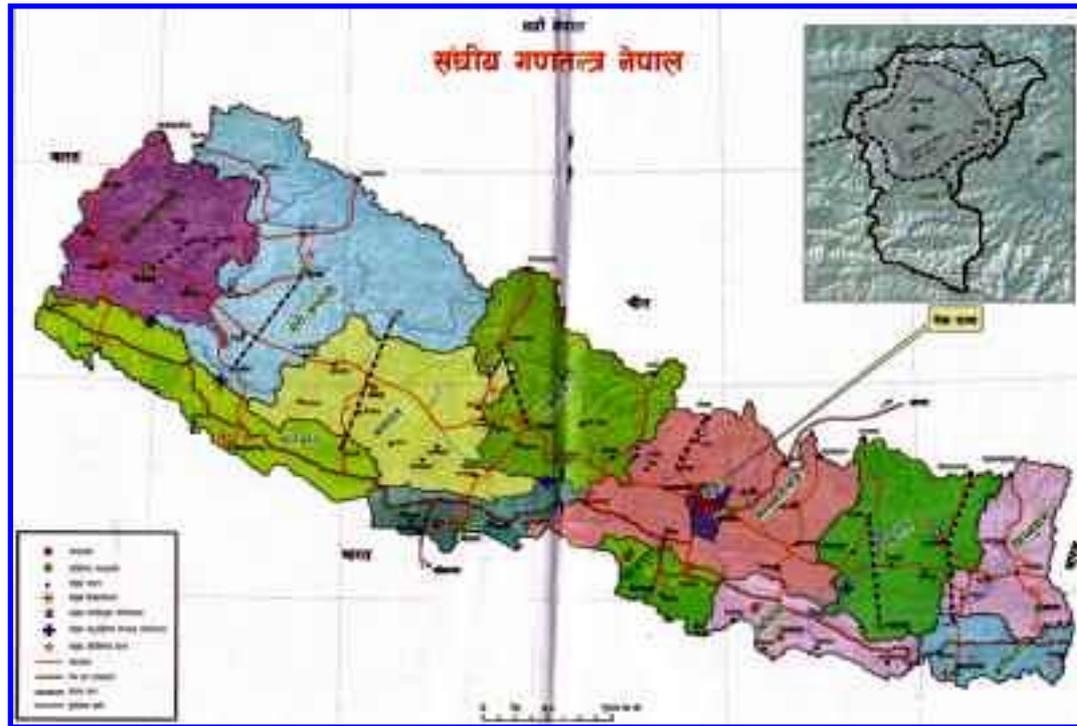
..... の先駆者、ハルカ・グルン氏は、学識も人格も傑出した方であったが、グルン案は何

と25州。生前お目にかかったとき、「民族」政治は危険ではないかと申し上げたが、現状はそのとき危惧した方向に向かっているようだ。

連邦制にし、州の下に準州、準々州……と自治レベルを多層化していく。政府公認だけでも102民族もあるから、そうならざるをえない。

行政は極度に複雑化し、役人天国となる。軍隊もこのままでは加算により15万人くらいになりそうだ。国会議員+州議会議員+準州議会議員+役人+軍人。統治コストの激増は必死だが、これも国際社会が払うのだろう。

.....,, はまことに結構なお題目である。



マオイスト11州案

これはマオイストのCA選挙マニフェスト。田中角栄氏も真っ青の「ネパール連邦改造計画」である。

21:11 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2009/11/03

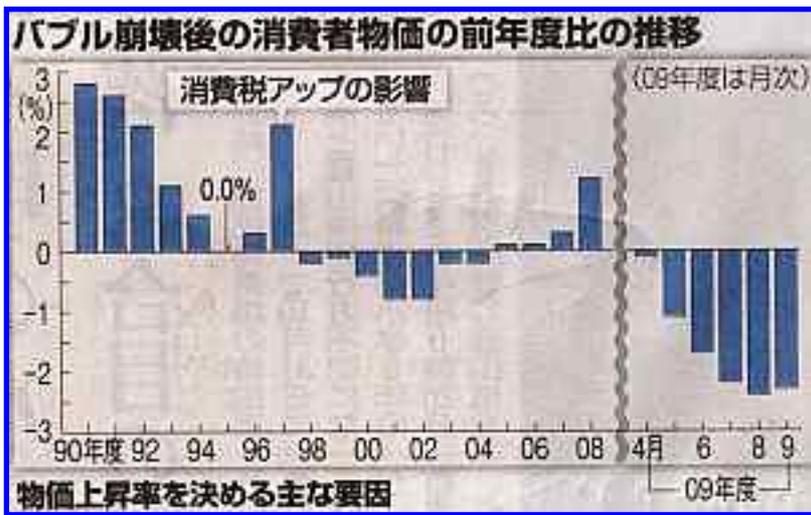
[インフレのネパール、デフレの日本](#)

谷川昌幸(C)

カトマンズのインフレは凄まじい。ホテルもレストランもみな高くなった。旅行者には生活必需品のことはよくわからないが、新聞記事では、こちらも大幅な値上がりらしい。日本円やドルに換算しても高いのだから、ルピーで生活せざるをえない庶民には、日々苦しくなるばかりだろう。

これとは逆に、日本はデフレだ（対前年9月物価-2.3%）。この数年、私の給料は下がる一方だし、商品やサービスをみても値下げが多い。ホテルにしても1泊3千円ほどで快適な部屋がいくらでもある。衣類の価格破壊も凄まじい。物もサービスも巷に溢れ、いくら値下げ

しても売れない。



(朝日11/3)

長崎市街では、目抜き通りでも貸しビル、売り家激増中。新卒大学生も余り、実質就職率はたぶん50%程度ではないか（高校生9月末就職内定率37.6%）。人間商品（人材）ですら、売れない。

地方に行くと、田畑が余り、地代はタダ以下。地主が耕作料を払わないと、借りてもらえない。マイナス地代だ。こんな時代がかつてあったらどうか？ マイナス地代がイヤなら、耕作放棄し、原野に戻す。おかげで、日本の農村は野生動物天国、故郷のわが実家の庭にも鹿、猿、猪などが出没する。デフレになり、自然が戻った。

インフレとデフレ。どちらがよりましたか？ インフレは躁、デフレは鬱。見た目には躁の方が楽しそうだが、これも本人にはつらいようだ。ほんに生きるのは難事だ。

13:58 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [経済](#)

2009/11/02

[人民蜂起か軍決起か](#)

谷川昌幸 (C)

ちょっと大げさなタイトルだが、マオイスト系新聞を見ると、現状はこんな感じになる。

1. マオイストの街頭行動計画

マオイストは、政府が文民支配回復要求にこたえなければ、下記のような抗議行動をとると発表した。

- 11/1 抗議運動開始宣言。全国たいまつデモ
- 11/2 全国町村役場の包囲デモ (Gherao)
- 11/3 お休み
- 11/4-5 郡役所の全日包囲デモ
- 11/6-8 お休み
- 11/9 自治共和国宣言 (解放区宣言?)
- 11/10 カトマンズ盆地閉鎖, 空港完全閉鎖
- 11/11 お休み

11/12-13 数百万人規模で政府庁舎包囲デモ

これはスゴイ蜂起計画だ。人道的にお休みもあるが、本当に実施されたら大混乱となり、各地にマオイスト自治共和国＝解放区が出来るかもしれない。

2. 軍総監の訪米

この状況をにらみながら、チャットラマン・グルン軍総監がハワイ開催の軍会議に出席する。グルン軍総監は、バイラバナート基地でのマオイスト捕虜大量失踪事件への関与が疑われている。

グルン軍総監は、米軍事大学校で教育を受けており、おそらく米軍とはツーカーであろう。マオイストが計画通り人民蜂起、自治共和国（解放区）設立に向かえば、グルン軍総監の出番となるかもしれない。

秋祭りが終わり、いよいよ政治の季節が始まった。



(Revolution in SA)

マオイスト系新聞挿絵。この構図は、ネパール首相の統一共産党の十八番だった。懐かしい。

10:05 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)